

# 目 次

目 次	1
I 平成29年度黒部市教育センター事業点検評価実施方針	2
II 点検評価の結果	
1 児童生徒の学力向上、教員の指導力向上	
(1) 市教委・市教セによる学校訪問（通常訪問・支援型訪問を含む）	3
(2) 学級運営研修会（若年教員中心）	4
(3) 中堅教員研修会	5
(4) 特別支援教育研修会	6
(5) 教科実技研修会「特別の教科 道徳」（若年教員中心）	7
(6) 情報教育実技研修会（情報教育研究委員会）	8
(7) 全国学力・学習状況調査の結果分析とその活用	9
(8) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析、 体力・運動能力向上研修会	10
2 黒部国際化教育の充実	
(1) 黒部国際化教育組織部会	11
(2) 企画・運営・評価部会	12
(3) 英会話科カリキュラム部会	13
(4) 英会話科担当者定例会	14
(5) 英会話科の推進に関わる研修会	15
(6) 英会話科の授業の充実及び環境整備	16
(7) 帰国児童生徒教育研究会	17
(8) 帰国児童生徒・外国人児童生徒教育	18
3 生徒指導・教育相談の充実	
(1) いじめ問題等研修会	19
(2) 生徒指導主事等研修会	20
(3) 教育相談の充実と体制づくり	21
(4) 不登校児童生徒に関わる取組、適応指導教室の充実	22
(5) スクールソーシャル・ワーカー（SSW）事業の活用推進	23
(6) 幼・保・こ・小・中学校の連携事業	24
4 学校教育を支援する調査・研究の推進	
(1) 社会科研究委員会	25
(2) 理科研究委員会	26
(3) 吉田科学館学習（プラネタリウム学習）	27
5 迅速な教育サービスの提供	
(1) 情報提供	28
(2) 視聴覚教材・書籍等の整備や貸し出し、掲示物等の印刷	29

# I 平成29年度黒部市教育センター事業点検評価実施方針

## 1 趣旨

教育センター運営の改善・改革を目指し、事業の執行状況について点検及び評価（以下「点検評価」と言う）を実施する。

## 2 点検評価の対象

平成29年度の黒部市教育センター事業

## 3 点検評価の方法

(1) 「平成29年度黒部市教育センターの要覧」に掲げる分野に基づき、個別事業ごとに点検評価シートを作成し、次の5段階による総合評価を行う。

評価	評価の規準等	達成度の目安
AA	目標を十分達成し、期待以上の成果が得られた。	100%以上
A	目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。	80～100%
B	目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた。	60～80%
C	目標をあまり達成できず、成果が少なかった。	30～60%
D	目標をほとんど達成できず、成果が少なかった。	0～30%

(2) 黒部市教育センター運営委員会での検討

自己点検評価したものについて、黒部市教育センター運営委員10名において、客観的な視点で検討する。

### 【黒部市教育センター運営委員名簿】

	氏名	役職
運営委員長	宮崎新悟	小学校長会会長（たかせ小学校）
運営副委員長	尾村国昭	中学校長会会長（桜井中学校）
運営委員	鍋谷悟	学校教育課長（黒部市教育委員会）
運営委員	籠浦智彦	学校教育班長（黒部市教育委員会）
運営委員	藤田信幸	こども支援課長（黒部市市民生活部）
運営委員	寶田順一	帰国児童生徒教育研究会会長（中央小学校）
運営委員	竹内美登里	小学校教育研究会会長（生地小学校）
運営委員	中村靖	中学校教育研究会会長（鷹施中学校）
運営委員	愛場幸男	生徒指導連絡協議会会長（宇奈月中学校）
運営委員	根塚昌志	小中学校教頭会会長（中央小学校）

(3) 報告及び公表

点検評価に関する報告書を作成し、これを各運営委員及び各学校に配付するとともに、ホームページの掲載等により公表する。

## Ⅱ 点検評価の結果

### 1 児童生徒の学力向上、教職員の指導力向上

事業・研修会名	1－(1) 市教委・市教セによる学校訪問 (通常訪問・支援型訪問を含む)
内容・方策	<p>富山県教育委員会や黒部市教育委員会の指導方針に即し、学校運営や教育指導、研修に関して指導援助し、学校課題の解明や教育実践の効果を高めることを目的として学校訪問を行う。</p> <p>○1～2学期に市教委・市教セによる学校訪問を実施し、若年教員の授業を中心に各教科等の授業を参観し、授業後には若年教員と懇談し、「確かな学力の育成」や「生徒指導の機能を生かした授業」等について指導・援助する。また、悩み事を聞く場としても活用する。</p> <p>○通常訪問や支援型訪問では、各教科等の授業参観をするとともに、部会協議会にも参加し、東部教育事務所の指導主事とともに指導助言にあたる。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市教委・市教セによる学校訪問では、若年教員の授業のよかった点を挙げて励ますとともに改善点も指摘した。また、若年教員からは学級運営や教科指導等に関する課題や悩みを聞き、それに対する指導・助言をすることもできた。若年教員にとって意義のある研修になったと考えている。</li> <li>・通常訪問や支援型訪問では、当初予定していた活動を行うことができた。部会協議会において指導助言にあたったり、後日、授業や研修について気付いたことをまとめ、各学校に届けたりした。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市教委・市教セによる学校訪問は、昨年度同様に、1学期に通常訪問が予定されている学校には2学期に、2学期に通常訪問が予定されている学校には1学期に行った。日程的に無理なく実施できたと考えている。</li> <li>・様々な学校課題について側面から援助できるようにするため、訪問の際には予定された授業だけでなく、他の授業の様子も観察し、課題に対応できるようにすべきである。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	1 - (2) 学級運営研修会（若年教員中心）
内容・方策	<p>若年教員が講話を聴いたり演習に取り組んだりすることにより、学級運営の力量を向上させる。また、学級運営上の諸問題や日々の悩みを話し合うことで、教員同士が横の連携を強め、互いに相談できる体制を構築できるよう支援する。</p> <p>①学級運営研修会（初任者対象）【5/2、参加者10名】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒部市内着任の初任教員同士が、悩み等を話し合っって横の連携を強めるとともに、社会人としての常識を身に付ける。</li> <li>・講師 黒部市教育センター 所長 宮本 悟</li> </ul> <p>②学級運営研修会（若年教員中心）【7/25、参加者65名】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級運営に関する講話や演習を通して、望ましい学級集団をつくるための研修を深め、教員としての指導力の向上と実践意欲の向上を図る。</li> <li>・演題 「学級集団を育てる教師のリーダーシップ」</li> <li>講師 上越教育大学教職大学院 教授 赤坂 真二 先生</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①の研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の悩み等を話し合い、共有することで、同じ悩みをもつ仲間としての意識が高まった。また、市教セとしても学校訪問の際に、声をかけたり悩みや要望を聞いたりしやすくなった。さらに、服装や電話の応対等、社会人としての基本的な心構えを知る機会となっていた。</li> </ul> <p>②の研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級運営についての講話や演習を通して、協働的問題解決力の大切さや、子供のやる気を引き出す方法等について学ぶことができた。</li> <li>・参加者からは、「信頼関係が大切だと改めて感じた」「子供の話をもっとたくさん聞いていきたいと思った」等の感想が寄せられ、今後の学級運営の道しるべとなったようである。</li> </ul>
課題・改善	<p>①の研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の反省から5月上旬に開催し、時期的にはよかった。</li> <li>・ここ数年、教育センター所長の講話が続いてきたが、最初のように、教育長の講話を検討してみてもよいのではないか。</li> </ul> <p>②の研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師については前年度のアンケート結果を基に人選を行ったので、要望に沿った研修会とすることができた。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	1 - (3) 中堅教員研修会
内容・方策	<p>中堅教員として、多様化する教育課題に適切に対応できる、幅広い視野に立った教育観を身に付けるとともに、教育活動の推進者としての資質と能力を高めるよう、研修を行う。</p> <p>○中堅教員研修会（事例研修会）【8/4、参加者13名】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者：市内小中学校の中堅教員（36歳～42歳）で、偶数年齢の教諭・養護教諭、及び希望教員。</li> <li>・事例：「学校統合への準備」について</li> <li>・指導助言者 東部教育事務所 主任指導主事 上野 郁行 先生</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校統合後、子供たちがスムーズに学校生活が送れるようにするための事前準備について、ブレインライティングによる演習を行った。各グループに1名、教頭先生がアドバイザーとして付き、助言を行った。</li> <li>・指導講話では、ミドルリーダーとして学校経営に参画する必要性や、後輩指導への期待等をお話しいただいた。</li> <li>・参加者からは、「事例研修という機会をいただいたことで、学校としてどう動いていくか、自分なら何ができるかを、具体的に考えることができた」「自分の視点のもち方を広げていかなければならない時期にきていると感じた」等の感想が寄せられ、中堅教員としての自覚が高まったようである。</li> </ul> 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から実施した研修会であるが、研修の基になった事例が、あまり適切でないという意見もあったので、校長会や市教委とさらに協議していく必要がある。</li> <li>・県が行う研修会と同様のものにならないように、また、教員の負担増にならないように配慮する必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隔年で、市内の中堅教員（36歳～42歳）全員を対象とする講演会を行う。（平成30年度は、事例研修会と講演会を行う）</li> <li>・課題・改善を踏まえ平成30年度も継続するが、県でも「中堅教諭等資質向上研修」を行うので、廃止を視野に入れた検討が必要である。</li> </ul>

事業・研修会名	1 - (4) 特別支援教育研修会
内容・方策	<p>特別な支援が必要な児童生徒への教育を推進するため、専門機関等と連携を図りながら、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導を行えるよう、研修を行う。</p> <p>○特別支援教育に関する研修会【8/7、参加者26名】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の学級における、特別な支援を必要としている児童生徒への配慮や支援について、講話や演習を通して研修し、指導力向上を図る。</li> <li>・演題 「通常の学級における合理的配慮について」 講師 東部教育事務所 小中学校巡回指導員 瀧脇 真紀 先生</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講話では、合理的配慮が出てきた経緯やその定義、症例に応じた対応策等を学んだ。</li> <li>・演習では、合理的配慮が必要な人や場面等について協議した。その後、実際に合理的配慮を行った事例を動画で視聴し、他の子供が不公平感をもたないような説明の在り方を検討した。</li> <li>・参加者からは、「合理的配慮について、具体の姿が分かり勉強になった」「子供一人一人にそれぞれの困り感があるという目をもって、子供たちを見ていきたい」等の感想が寄せられ、児童生徒理解や合意形成の重要性を、改めて感じる研修会となった。</li> </ul> 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合理的配慮について言葉では理解していても、実際の取組に戸惑っている教員も多く、はっきりした定義や具体的な姿を知るよい機会となった。</li> <li>・通常の学級でも、比較的重度の障害を抱えている児童生徒がおり、周りの児童生徒への影響が大きいという悩みも多い。適切な指導や支援を行うことができるよう、教師の専門性を高められる研修会を企画していく必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	1－(5) 教科実技研修会「特別の教科 道徳」(若年教員中心)
内容・方策	<p>授業を実施する上での基礎・基本等についての理解を深めることで、指導力の向上を図る。</p> <p>○教科実技研修会(若年教員中心)【7/28、参加者35名】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教科 道徳」の授業方法や評価、指導上の留意点等について研修し、指導力の向上を図る。</li> <li>・演題 「特別の教科 道徳」の実践と評価 講師 東部教育事務所 指導主事 大坂由喜子 先生</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講話では、道徳教育全体の抜本的改善の過程から、道徳教育の目標や学習指導要領改訂の方向性、さらに、道徳性の内容や評価方法等、様々なことを知ることができた。</li> <li>・演習では、小学校低学年の読み物資料を取り上げ、中心発問を話し合った。教師が①分析的②共感的③批判的④投影的等、多面的・多角的な発問を用意し、子供の実態に応じて組み立てていくことが重要であると学ぶことができた。</li> <li>・参加者からは、「実際に発問を考え、みんなでシェアできたことが印象的だった」「『考え、議論する』道徳のイメージができた。先が見えてきたような気がした」等の感想が寄せられ、新しい道徳科への不安が、少し解消されたようである。</li> </ul> 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教科 道徳」は、小学校では平成30年度から完全実施であり、困惑している教員も多い。ニーズに合った研修会だったと思える。</li> <li>・授業の実践とともに、評価方法についての質問が多かった。しかし評価については、具体的な文例等がなかったので、参加者には少し不安感が残ったようである。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までは教科と体育科の研修会を隔年で行ってきた。しかし、教科の研修の必要性が高まってきており、隔年にとらわれず、必要な研修会を行っていく。</li> <li>・平成30年度は、安全面を重視した理科実験の研修会を行う。</li> </ul>

事業・研修会名	1 - (6) 情報教育実技研修会（情報教育研究委員会）
内容・方策	<p>児童生徒の情報活用能力の育成を図るため、情報教育に必要な知識や効果的な情報機器の活用の仕方等を研修する。 （情報教育研究委員、希望者）</p> <p>○情報教育実技研修会【8/1、参加者15名】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミング教育の概要を知り、総合的な学習の時間や教科での指導力向上を図る。</li> <li>・演題 プログラミング教育について 講師 東部教育事務所 指導主事 小田仁洋 先生</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講話では、プログラミング教育の重要性や活用法等について学ぶことができた。</li> <li>・演習では、オーロラクロックを使って信号機のプログラムを作成したり、プロロボを使って、規定の道をロボットに進ませてみたりした。いずれもグループで活発に話し合い、失敗を繰り返しながらも、楽しくプログラムを作成することができた。</li> <li>・参加者からは、「プログラミング教育の具体例について知ることができ、とても参考になった」「試行を繰り返す中で、論理的思考を育成する過程では、魅力的な教材選びが大切だと思いました」等の感想が寄せられ、プログラミング教育への不安が、少し解消されたようである。</li> </ul> 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は新学習指導要領に対応するため、新しく必修になるプログラミング教育についての研修を行った。先生方の知りたい知識・情報を提供できた研修会になった。</li> <li>・参加者の感想には、学校に配備されたタブレットをうまく活用することができないという悩みから、タブレット端末の有効な活用法、授業に活用できるアプリの紹介があったらよいという声があった。それらのニーズに応えられるよう研修内容を工夫していく必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	1－(7) 全国学力・学習状況調査の結果分析とその活用
内容・方策	<p>全国学力・学習状況調査の結果等を生かし、市内小中学校が児童生徒の学力向上や基本的生活習慣の定着を図れるように支援する。</p> <p>○全国学力・学習状況調査の結果分析等を行い、報告書として小中学校に配布する。報告書は小中学校の学力向上への取組に参考としてもらえる内容にする。</p> <p>○全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙調査の質問項目をもとに簡易版の調査用紙を作成し、小中学校に配布する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査の結果について、児童生徒が学力面での課題を把握するために、個人票を作成するためのソフトを小中学校に送付した。</li> <li>・「平成29年度 全国学力・学習状況調査報告書」では、教科に関する調査や児童・生徒質問紙調査の結果について、その概要を報告した。結果の分析では、「問題A・Bの相関関係」「小6から中3への変容」「設問別正答率の学校間の開き」「児童・生徒質問紙調査結果の経年比較とクロス集計」等を示し、小中学校が学力向上に向けた取組をする際に参考としてもらえるデータを提供した。</li> <li>・全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙調査の質問項目から20項目を選び、簡易版の調査用紙と集計用のソフトを作成し、小中学校に配布した。今後、小6・中3以外の学年でも実施することで、各学年の課題を把握したり、学校の取組について評価したりする際に効果を発揮するのではないかと考えている。</li> </ul> <div data-bbox="1145 1153 1414 1527" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">平成29年度 全国学力・学習状況調査 報告書</p> <p style="text-align: center; font-size: small;">平成30年1月 黒部市教育委員会 黒部市教育センター</p> </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、問題A・Bの相関関係や小6から中3への変容について、バブルチャートを用いて示すことができた。今後も、学校がどのようなデータを必要としているか、市教委や校長会とも協議しながら、提示していく必要がある。</li> <li>・今年度、学力向上市町村教育委員会プラン研究委託事業の拠点校（たかせ小学校、高志野中学校）の取組について、「教育センターだより」に掲載し、各校で共有することができた。優れた取組例は共有することが大切であり、今後も発信の方法を検討し、多くの取組例を共有できるようにしたい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	1－(8) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析、 体力・運動能力向上研修会
内容・方策	<p>全国や富山県が実施した体力・運動能力調査の結果をもとに、市内の児童生徒の体力・運動能力、運動習慣の状況を把握・分析し、学校での授業改善や体力向上・生活習慣改善の取組の支援をする。</p> <p>①「平成29年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」等の結果を分析し、本市児童生徒の課題を示す。 ②体力・運動能力向上研修会を開催し、今後の取組について協議、提案する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力調査の結果を「平成29年度 体力・運動能力、運動習慣に関する調査結果の概要」（報告書）としてまとめた。報告書では、本市児童生徒の実技調査や質問紙調査の結果、学校質問紙調査の結果、各種のクロス集計による分析等を示した。また、体力・運動能力向上についての提言をまとめ、今後の参考資料とした。</li> </ul> <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の体育主任を対象に、「体力・運動能力向上研修会」を開催した。児童生徒の今年度の結果を示し、新体力テストの実施方法の確認や、苦手種目の向上に向けた取組について協議した。また、体力向上に関する各校での取組について情報交換したり、中学校の体育科教員から、体力・運動能力向上について、どのような取組が有効かを話してもらったりすることができた。</li> </ul> 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力・運動能力、運動習慣に関する調査結果は、様々な角度から分析することにより、本市児童生徒の課題を明らかにしたり、解決策を考えたりすることができるように思われる。さらに、どのような分析をすればよいかを検討することが必要である。</li> <li>・体育主任は若手の教員も多くなってきている。今後、体育科の指導をはじめ、体力・運動能力向上に取り組むにあたり、校内で共通理解を図ることができるよう、体育主任としての力量の向上が必要である。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>

## 2 黒部国際化教育の充実

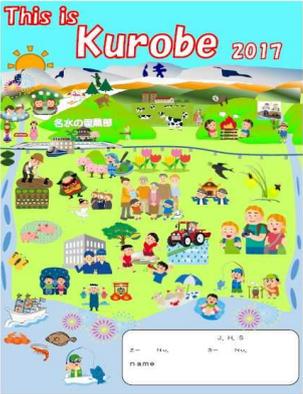
事業・研修会名	<b>2－(1) 黒部国際化教育組織部会</b>
内容・方策	<p>英会話科の実施をはじめとする黒部国際化教育の各事業について、黒部国際化教育組織部会において、事業方針や事業内容等について審議する。また、企画・運営・評価部会、カリキュラム部会、英会話科定例会で検討されたことについて情報共有を図る。</p> <p>○年2回開催し、以下のことについて協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度の英会話科学習指導要領について</li> <li>・平成29年度の成果や課題、平成30年度の方針について</li> <li>・平成30年度以降の英会話科について</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回は5月29日に開催し、今年度の英会話科学習指導要領や、「This is Kurobe」の作成や活用、次年度以降の英会話科の方向性等について協議した。特に、新学習指導要領との関係で次年度からの変更点を話し合ったが、国の方針がはっきりしていないこともあり、継続して協議していくことになった。</li> <li>・第2回は次年度の英会話科学習指導要領等について協議するため、12月12日に開催した。新学習指導要領の理念をさらに取り入れることや、国の教材を活用すること、平成31年度に授業公開を行うことなどが確認された。</li> <li>・第3回は3月2日に開催し、黒部国際化教育について、今年度の成果と課題、次年度の事業について協議した。特に次年度の英会話科の進め方について細部まで検討することができた。</li> </ul> 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は新学習指導要領との関係から、英会話科の学習指導要領を大きく見直す必要があり、年3回の開催となった。</li> <li>・新学習指導要領が完全実施される、平成32年度以降の英会話科の在り方については、今後とも慎重に協議を進めていく必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>2-(2) 企画・運営・評価部会</b>								
内容・方策	<p>充実した英会話科の取組ができるよう、英会話科の重点目標の共通理解を図るとともに、各校の取組状況の情報交換、成果と課題の確認等を行う。(参加者は各校の教頭先生)</p> <p>○年2回開催し、以下のことについて伝達、協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英会話科に関するアンケート、英検3級以上取得者調査、中教研学力調査英語科聞き取り調査の結果、エンジョイトーキングとスピーキングテストの集計等の提出について</li> <li>・平成29年度の英会話科の成果と課題</li> <li>・平成30年度の英会話科学習指導要領について</li> </ul>								
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度の英会話科の成果と課題、平成30年度の英会話科学習指導要領等について、共通理解を図ることができた。</li> <li>・“Let's Try!” “We Can!” 以外のデジタル教材について紹介するとともに、使用方法について説明し、大きく変わる指導方法等について共通理解を図ることができた。</li> <li>・中学校英語科の教頭先生より、中学校1年生における、文字の発音の指導方法について教えていただき、小学校での指導の参考にすることができた。</li> <li>・中学校での、英語検定取得に関する取組等の情報交換を行うことができた。</li> <li>・中学3年生の英検3級以上の取得率が、昨年度を大きく上回る結果となった。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="font-size: small;">平成29年度 黒部国際化教育推進事業</p> <p style="text-align: center;"><b>英会話科のまとめ</b></p>  <p style="font-size: x-small; text-align: center;">平成30年3月 黒部市教育委員会 黒部市教育センター</p> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 20%;">H27年度</th> <th style="width: 20%;">H28年度</th> <th style="width: 30%;">H29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英検3級以上の取得率 (平成30年1月現在)</td> <td style="text-align: center;">34.0%</td> <td style="text-align: center;">19.8%</td> <td style="text-align: center;">41.3%</td> </tr> </tbody> </table>		H27年度	H28年度	H29年度	英検3級以上の取得率 (平成30年1月現在)	34.0%	19.8%	41.3%
	H27年度	H28年度	H29年度						
英検3級以上の取得率 (平成30年1月現在)	34.0%	19.8%	41.3%						
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は2回開催の予定であったが、1・2学期は国の方針がはっきりしていないこともあり、3学期に1回だけ開催した。</li> <li>・中学3年生の英検3級以上取得率は35%を目標にしているが、今年度は41.3%と昨年度を大きく上回る結果となった。生徒が「英検を取得してみよう」と思うような手立てを、今後も継続して工夫していくことが重要である。</li> </ul>								
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>								

事業・研修会名	<b>2－(3) 英会話科カリキュラム部会</b>
内容・方策	<p>今年度のカリキュラムにおける成果や課題等を集約し、より効果的な指導計画を作成することで、教員の授業力向上と子供たちのコミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>○1・2学期末（8月、12月）の年2回開催する。  ○小学校での外国語科導入に対応した年間指導計画の見直し・作成を行う。  ○部員は小中各1名（中学校は英語科教員）とする。12月の部会には、JAT・JETも参加してもらい、年間指導計画の作成に向けて意見を聞く。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回は8月24日に開催し、次年度の年間指導計画案について協議した。特に、英語でのやり取りについて、学年に応じた条件での文例について、学年ごとのグループに分かれて話し合い、作成した。また、移行期間中に行わなければならないトピック等についての共通理解を図った。</li> <li>・第2回は12月26日に開催し、次年度の英会話科学習指導要領についての共通理解を図った。また、文科省の教材“<i>We Can</i>”や“<i>Let's Try</i>”を参考にしながら、部会の意見をまとめた次年度のカリキュラム案の見直しを行った。さらに、「<i>Enjoy talking</i>」、「<i>Speaking test</i>」の流れ、“<i>This is Kurobe</i>”作成時の授業展開例の見直し・点検を行った。</li> </ul> <div data-bbox="1078 1021 1401 1464" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center; font-size: small;">黒部国際化教育</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">平成30年度「英会話科」 年間指導計画</p>  <p style="text-align: center; font-size: x-small;">黒部市教育委員会 平成30年4月</p> </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はカリキュラムを大きく変更する必要があったので、2回とも作業量が非常に多く、時間内に終われないグループもあった。</li> <li>・平成32年度からの新学習指導要領全面実施に向け、指導体制の在り方や指導内容の吟味、指導者のさらなる指導力向上を目指していく必要がある。</li> <li>・組織部会等での協議事項をしっかりと確認できず、部員の先生方に余計な作業をさせてしまい、大変迷惑を掛けてしまった。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>2－(4) 英会話科担当者定例会</b>
内容・方策	<p>月1回定例会を開催し、英会話科を担当しているALT、英会話講師、市担当者、センター職員が年間計画に基づいて研修を行う。</p> <p>○授業の充実のための研修、英語サマーキャンプの企画・運営、年間指導計画の見直し等を中心に行う。</p> <p>○1月下旬から順次ALT、英会話講師との面接を行い、仕事の状況を確認したり、悩みの相談にのったりする。また、次年度の配置を伝えるとともに、服務に関すること、英会話科の授業の重点等に関する研修を行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画に基づいて定例会を開催した。英会話科の授業や授業以外の英語活動について課題や改善点等を話し合うことを通じて、ALT、英会話講師の研修を進めた。</li> <li>・英語サマーキャンプにおいては、ALT、JAT、JETが中心となって取り組んだ。事後アンケートには、指導者・参加者共に充実したキャンプであった様子が記載されていた。今年度で11年目になるが、毎年50名前後の希望者がおり、連続して参加を希望する児童も多い。</li> <li>・英語サマーキャンプへの参加者からは、「英語を話せてよかった。分かるようになってきた」「英語の楽しさを知った。今後も使いたい」等の感想が寄せられ、英会話への興味・関心が高まっていたようである。</li> </ul> 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英会話科の授業においては、内容や指導方法等を検討することができて、成果があったと感じられる。ただ、普段子供たちを英会話に慣れ親しませるための環境づくりの必要性が感じられた。環境整備について、各校へ依頼する必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>2－(5) 英会話科の推進に係わる研修会</b>
内容・方策	<p>黒部の英会話科の目標「英語を用いたコミュニケーション能力の育成」「ふるさと黒部を豊かに英語で語れる生徒の育成」の達成に向けて、英会話科の授業の充実を目指し、研修を行う。</p> <p>○英会話科指導者研修会（5月16日）【参加者13名】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒部市外からの着任者及び初任者に黒部国際化教育(事業全体、英会話科)についての研修を行う。</li> <li>・模擬授業を通して、単元構成やアクティビティ、クラスルームイングリッシュ等についての研修を行う。</li> <li>・指導講師 英語専科教員 伊東啓一 先生 A L T ヘンリー・プロサクⅢ 先生</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の前半では、黒部国際化教育について、取り組み始めた理由や様々な事業についての説明を行った。また、4つのPに基づいた授業についての共通理解を図った。</li> <li>・後半では、A L Tと英語専科教員による模擬授業を行い、英会話科で目指している具体の姿を児童の立場で経験し、理解できるよう配慮した。また、簡単なアクティビティを通して、積極的にクラスルームイングリッシュを使用することを体験した。</li> <li>・参加者からは、「どのような立場で臨めばいいのか悩んでいたけど、英会話科の形が分かってスッキリした」「担任にできることは、もっとたくさんあるのだと気づき、早速実践につなげていきたい」等の感想が寄せられ、英会話科の授業実践への意欲が高まったようである。</li> </ul> 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の反省を基に、指導者研修会（新採者等対象）と実技研修会（希望教員）を合同で開催したが、希望教員の参加者はいなかった。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員悉皆の指導者研修会を隔年実施とし、平成30年度に実施する予定である。しかし、悉皆研修が本当に必要なのか、各校の校内研修で補った方がよいのではないかなど、検討していく必要がある。</li> <li>・平成30年度から新たな指導計画で授業を行うので、平成30年4月に、教材を使用した模擬授業を含めた研修会を行う。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>2－(6) 英会話科授業の充実及び環境整備</b>
内容・方策	<p>英会話科の取組の充実を目的として、各校の取組を広く紹介したり、学習効果の上がる教材を作成したりするなど、英会話科の充実と環境整備にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと黒部のことを英語で豊かに語ることでできる生徒を育成するための“<i>This is Kurobe. 2017</i>”やその他の教材を作成し、配布する。</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も“<i>This is Kurobe</i>”を作成して中学2年生に配布し、スピーキングテストにも活用した。黒部市の名所、名産等を紹介する英文を掲載し、作成した生徒の学校名も記載し、生徒の学習意欲を高めるように配慮している。この冊子は、3年生の修学旅行時や黒部市のコマーシャルを作る学習活動等で生かすことにしている。</li> <li>・“<i>This is Kurobe</i>”について、作成することが目的となっている面が見られた。黒部の名所等を題材に、生徒同士が英語で語り合う作成過程を重視するように、カリキュラム部会で授業展開例の見直しを図った。</li> <li>・小中連携の観点から、小学校の地域学習の情報を市教セが仲立ちとなって中学校に伝え、“<i>This is Kurobe</i>”の作成に役立てられるように配慮した。</li> </ul> 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“<i>This is Kurobe</i>”は、作成時期によって使用できる英語表現が限られてくる。なるべくいろいろな表現が使えるよう、作成後の活用の時期も考え、2年生の3学期に作成した。しかし、審査や製本等の期間も必要なため、2年生の12月頃から作成するのが望ましい。</li> <li>・“<i>This is Kurobe</i>”を活用した中学3年生の授業展開例等を、作成と合わせて検討していく必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>2-(7) 帰国児童生徒教育研究会</b>
内容・方策	<p>帰国児童生徒及び外国人児童生徒が、日本の学校生活、生活様式に適応できるように支援する。(黒部市とYKKからの補助金と各校からの会費等により研究活動を進める)</p> <p>①保護者会やサマースクールの開催、会報Accessの発行を行う。  ②国際理解教育の充実を図るため、県外研修報告や全体研修会を行う。  ③各校および関係機関・保護者との連携を密にし、帰国児童生徒への援助・相談を充実させる。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回保護者会では、言葉の習得について話し合った。  &lt;中央小学校、6/24、保護者10名(帰国3名、外国籍7名)&gt;</li> <li>・第2回保護者会では、学校内で母国や滞在先の言語を紹介できるような環境作りについて話し合った。  &lt;中央小学校、12/9、保護者14名、児童13名、幼児5名&gt;</li> <li>・サマースクール&lt;8/1、保護者7名、児童10名、幼児3名&gt;  黒部宇奈月温泉駅の地域観光ギャラリーや松桜閣を見学したり、黒部牧場まきばの風でアイスクリームを作ったりしながらお互いの交流を深めた。</li> </ul> <p>②の研修会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県外研修報告 魚津市立西部中学校  仙名駿佑 教諭</li> <li>・全体研修会  演題 「日本の学校で学ぶ外国にルーツをもつ  子どもたち～支援のあり方と可能性～」  講師 アレッセ高岡 青木由香 氏</li> </ul> <p>③の援助・相談について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帰国前に学校の情報や帰国保護者のネットワークのことができればよかったとの意見を受け、会報Accessや教育センターのホームページ、YKK教育相談室だよりで、一時帰国等の家庭にも広く活動を紹介することにした。</li> <li>・おもな行事のお知らせ文書に関して、英語・中国語・タガログ語・ポルトガル語を併記したものを黒部市センターサーバーにアップした。</li> </ul> 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と協力し、気軽に母語や滞在先の言語が使えるような環境作りを行う必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>2－(8) 帰国児童生徒・外国人児童生徒教育</b>
内容・方策	<p>帰国・外国人児童生徒がスムーズに学校生活を送ることができるように、学校・市教委と連携して指導にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帰国児童生徒に対しては一人一人に応じた学習指導を、外国人児童生徒に対しては日本語指導を中心に行う。</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央小学校では、数名の帰国児童・外国人児童について、週1回の付添指導をしている。帰国・外国人児童が学習内容や先生の指示等を理解していないと思われる場合に、分かりやすい言葉で説明したり、級友と仲よく関わられるように声をかけたりしている。</li> <li>・中央小学校の1年生外国人児童について日本語を指導してほしいとの要請があり、6月半ばから1日2時間取り出し授業をしている。教室での一斉指導の内容をより理解するために、担任と連携をとりながら、学校生活について教えたり、語彙や言い方を練習したり、自分の気持ちを表現する学習をしたりしている。</li> <li>・帰国・外国人児童と受け入れる児童双方の国際理解のきっかけとなるよう、日本の行事や外国の文化についての掲示物を作成するなど、中央小学校なかよし教室の環境整備を図っている。また、その掲示物や外国の文化についての資料を黒部市センターサーバーにアップしている。</li> <li>・気持ちが不安定な外国人母子家庭の児童に関して、現在の不安を受け止め将来への希望につながるよう励ますと同時に、母親とSSWとの面談を行っている。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級担任と連携をはかり、個々の児童に応じた指導を継続する。</li> <li>・外国人保護者が生活に不安を抱えている場合、児童生徒にも影響が及ぶことがあるので、必要に応じて学校やSSW等と連携を図り適切に対応していく。</li> <li>・帰国・外国人児童生徒が編入してきた場合、効果的な対応ができるように、これまでの反省と効果のあった対応を累積し整理しておく必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善をふまえ、平成30年度も継続していく。</li> </ul>

### 3 生徒指導・教育相談の充実

事業・研修会名	3-(1) いじめ問題等研修会
内容・方策	<p>いじめ問題について、「黒部市いじめ防止基本方針」に即し、組織的な対応ができるよう研修を深める。</p> <p>○「いじめ問題等研修会」を年2回実施。(4月19日、2月7日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校教頭を対象に、いじめの未然防止や対応について研修を深める。</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○第1回研修会(4月19日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめ防止等のための基本的な方針」の改定を受けて、各校の「いじめ防止基本方針」の作成上の留意点等について研修を行った。</li> <li>・留意点等を校長研修会でも共通理解を図ることによって、法律に従っていじめ認知や解消を考えることができた。また、各校の「いじめ防止基本方針」を年度当初に保護者に示すことができた。</li> </ul> <p style="text-align: center;">講師 黒部市教育委員会 学校教育班長 籠浦智彦 氏</p>  <p>○第2回研修会(2月7日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめ、ネットトラブルの現状と未然防止」という演題で、ネットの危険性や自己有用感の大切さについて研修を行った。</li> </ul> <p style="text-align: center;">講師 黒部警察署 生活安全係長 二日市 喜一 氏 黒部警察署 警備係長 横山 泰佑 氏 黒部市教育委員会 学校教育班長 籠浦 智彦 氏</p>
課題・改善	<p>「いじめ防止等のための基本的な方針」の改訂やネットトラブルの現状等について、最新の情報を知ることができ、学校現場での対応に役立てることができた。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> <li>・第2回いじめ問題等研修会は、多忙化緩和の観点から、第4回生徒指導主事等研修会と合同で実施する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>3－(2) 生徒指導主事等研修会</b>
内容・方策	<p>生徒指導主事の資質・能力の向上を目的とし、日常的に起こり得る課題への対応について、年4回研修会を開催する。小中連携の意識を高め、児童生徒を9年間で育てるという視点から、演習は中学校区ごとのグループで行う。</p> <p>第1回 5月17日 「生徒指導主事としての実務と演習」 講師 東部教育事務所 主任生活指導主事 五十里親良 先生</p> <p>第2回 6月30日 「対人関係ゲームを用いた集団づくり」 講師 県総合教育センター 主任研究主事 本村雅宏 先生</p> <p>第3回 11月16日 冬季休業中の生徒指導、情報交換</p> <p>第4回 2月7日 「いじめの実態と現状、対応について」 講師 東部教育事務所 主任生活指導主事 五十里親良 先生</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修後のアンケートを活用して先生方の要望を把握し、ニーズに応じた研修内容を設定することができた。</li> <li>・生徒指導主事として、ケース会議や打合せ等でリーダーシップを発揮できるように、演習を取り入れ、学校ですぐに実施可能な研修とした。</li> <li>・毎回、中学校区ごとに情報交換の時間を設け、現在の学校の様子や気になる児童生徒の状況を共通理解できるようにした。</li> <li>・自ら進んで考える研修を目指して、課題提示→演習→講話と研修の進め方を決め、講話を聞くだけの受け身の研修にならないよう配慮した。</li> </ul> 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は生徒指導主事の負担を考慮し、第3回研修会の内容を見直し、短時間で行った。</li> <li>・生徒指導主事の資質・能力向上を目的としている研修会であるが、生徒指導主事以外も参加できるように配慮するなど、多くの教員が学ぶことができる手立てが必要である。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> <li>・第4回の研修会は、多忙化緩和の観点から、第2回いじめ問題等研修会と合同で実施する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>3 - (3) 教育相談の充実と体制づくり</b>																																
内容・方策	<p>適応指導教室「ほっとスペース」と教育センターにおいて、来所、電話等による教育相談を実施し、保護者・教員の悩みや課題の解決を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向けに、教育相談の案内を年4回配布している。</li> <li>・保護者からの教育相談を受け、相談内容によっては学校に連絡したり、学校と協議したりして、保護者や子供の支援にあたる。</li> <li>・市教委・市教セによる学校訪問、通常訪問、支援型訪問で学校訪問をした際に、懇談会等で教員の相談等に乗る。また、必要に応じて各学校に出向き、相談に乗ったり、要望に応えたりする。</li> </ul>																																
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>・相談件数と主な内容（平成30年2月末現在）</p> <table border="1" data-bbox="464 898 1394 1128"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">保護者</th> <th rowspan="2">学校</th> <th rowspan="2">合計</th> <th colspan="5">内 訳</th> </tr> <tr> <th>不登校</th> <th>人間関係</th> <th>子育て</th> <th>進路</th> <th>他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>適応指導教室</td> <td>117</td> <td>55</td> <td>172</td> <td>88</td> <td>26</td> <td>16</td> <td>26</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>教育センター</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※来所による相談、電話やメールによる相談を含む。内訳は複数回答。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談内容によっては、適応指導教室やSSWにも連絡し、具体的な支援にあたった。</li> <li>・学期の始めや終わりに教育相談の案内を配布した。配布後には教育相談が多くなる傾向がみられることから、一定の効果があったと思われる。</li> <li>・相談者の意向を尊重しつつ、必要と思われるものは当該校に連絡し、共通理解を図った。</li> </ul>		保護者	学校	合計	内 訳					不登校	人間関係	子育て	進路	他	適応指導教室	117	55	172	88	26	16	26	16	教育センター	11	0	11	6	2	1	1	1
	保護者					学校	合計	内 訳																									
		不登校	人間関係	子育て	進路			他																									
適応指導教室	117	55	172	88	26	16	26	16																									
教育センター	11	0	11	6	2	1	1	1																									
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な支援が必要な場合の、適応指導教室・SSWとの連携や、学校、市教委、県教委、関係機関との情報共有等について、さらに意識して取り組むことが重要である。</li> </ul>																																
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>																																

事業・研修会名	<b>3 - (4) 不登校児童生徒に関わる取組、適応指導教室の充実</b>
内容・方策	<p>小・中学校の不登校児童生徒を適応指導教室「ほっとスペース」において預かり、学校とも連携を図りながら様々な指導を行い、児童生徒の学校生活への復帰を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通所している児童生徒の実態に即し、成長発達に役立つ活動を実施する。</li> <li>・相談活動により保護者の精神の安定を図る。</li> <li>・関係小・中学校及び市教委と連携しながら児童生徒の支援を行う。</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度通所した生徒 8名（小学生3名、中学生5名） ※4月は4名通所で開始。5・11・12・2月に1名ずつ増え、8名であるが、2学期に1名が学校へ復帰したため、現在は7名が通所。内5名は部分登校ができています。</li> <li>・毎月、欠席の多い児童生徒の数を調査し、その結果を市教委や校長研修会で報告した。</li> <li>・通所している児童生徒一人一人の状況に合わせ、個別の計画を立てて指導にあたった。市教委から適応指導教室に適宜訪問し、児童生徒の観察や面談をするとともに、児童生徒への指導や保護者への対応について、適応指導教室指導員、教育相談員と打合せをした。また、学校には、月ごとに児童生徒の活動報告を届けた。必要に応じて、電話で連絡したり、関係教員を交えてのケース会議を行ったりして情報の共有を図った。</li> <li>・学校から不登校の生徒や保護者に働きかけをしてもらったことで、2学期以降の通所生徒が増加した。</li> <li>・月に1回、保護者と指導員、保護者同士が懇談する場（おしゃべりカフェ）を設けている。保護者の心の支えとなっていると考えられる。2月末現在の参加者は、延べ55名。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内には、学校にも適応指導教室にも来ることができない児童生徒がまだ多数いる現状であり、今後も学校や保護者への働きかけに努めていくことが大切である。</li> <li>・教育相談をしてくる保護者には、かなり精神的に不安定な状態になっているケースが多くなっており、保護者を支えるという視点も大切である。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>

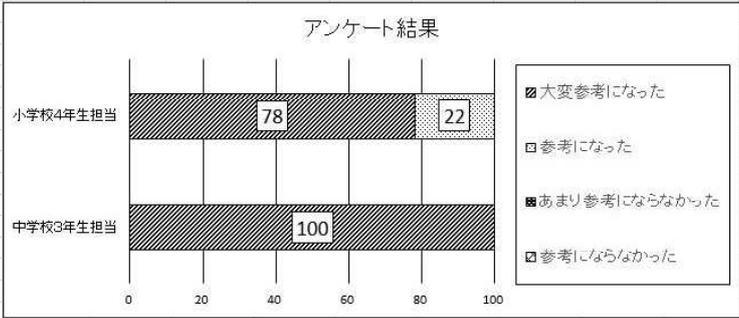
事業・研修会名	<b>3 - (5) スクールソーシャル・ワーカー (SSW) 事業の活用推進</b>
内容・方策	<p>不登校や児童虐待等の生徒指導上の課題に対応するため、SSWを派遣し、問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけや関係機関との連携・調整等を図る。</p> <p>①毎週木曜日の午前と金曜日の午後に、SSWが学校の要請に応じて、家庭訪問をしたり電話連絡したりして、問題を抱えた児童生徒やその保護者の相談に乗る。</p> <p>②関係機関等とのネットワークを活用し、なかなか学校では発見しにくい家庭内の問題や子供の問題等を発見し、学校に連絡したり、課題解決の対応について協議したりする。</p> <p>③SSWが小中学校・幼稚園等を訪問し、SSWについての説明や活用促進の呼びかけを行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度からSSWが3名になり、半日ずつ勤務をしている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;SSW 1&gt; 毎週木曜日の午前、高志野中に勤務。</li> <li>&lt;SSW 2&gt; 毎週金曜日の午後、生地小や石田小に勤務。</li> <li>&lt;SSW 3&gt; 毎週木曜日の午前、桜井小に勤務。</li> </ul> </li> <li>・活動記録（2月末現在、3名の合計） <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月末までの勤務 450時間（県367.5h、市82.5h）</li> <li>・働きかけをした対象者 児童生徒20名、保護者13名</li> <li>・家庭訪問（延べ回数） 10回</li> <li>・ケース会議（延べ回数） 2回</li> </ul> </li> <li>・定期的な学校勤務は3時間程度であり、必要に応じて様々な学校に赴き、ケース会議等に参加したり家庭訪問したりした。</li> <li>・市教セ主催の生徒指導主事等研修会にも積極的に参加し、各校との情報交換に努めた。</li> <li>・小中学校や幼稚園・こども園・保育所への訪問、就学時健診での保護者への広報活動等を通して、学校や保護者にSSWの役割について広く知らせることができた。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの学校において、SSWを効果的、効率的に活用してもらうため、中学校に1名配置して校区の小学校に出向くなど、勤務の仕方を検討する必要がある。</li> <li>・今後も幼稚園、こども園、保育所に出向いて、小学校入学前の段階で情報収集したり、支援できることを提案したりしていくことが大切である。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>3－(6) 幼・保・こ・小・中学校の連携事業</b>
内容・方策	<p>子供たちが健全に成長できるよう、幼稚園・保育所・こども園と小学校、小学校と中学校での情報共有や連携を深めるための方策を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校（園）訪問において、幼稚園、こども園、小・中学校の連携の視点をもって指導助言にあたる。</li> <li>・小中連携に役立つ資料の提供をする。</li> <li>・中学校区ごとに生徒指導に関する共通した方針を立てて実践していくことができるように、生徒指導主事等研修会での情報交換の在り方を工夫する。</li> </ul>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>B</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校（園）訪問においては、幼稚園、こども園には小学校への進学を、小学校には中学校への進学を念頭に置いた助言を行った。</li> <li>・生徒指導主事等研修会や体力・運動能力向上研修会等の研修会において、演習をしたり情報交換をしたりする際に、中学校区ごとの小グループで行った。小中の各学校の実情もふまえた話合いが行われていた。</li> <li>・SSWと一緒に幼稚園等を訪問し、支援が必要な幼児や家庭の状況等についての情報収集や相談活動を行った。また、その情報を小学校の訪問活動の際に伝えたりした。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市教セの研修会で、小中の教員が互いの教育活動について理解したり情報共有したりする活動は、有効であった。</li> <li>・幼・保・小の連携について、具体的な取組を教育センターだより等で紹介したり、市教セが中心となって情報交換や研修の場を設けることが大切であるが、実施できなかった。</li> <li>・幼・保・こ・小・中学校の連携に関して、それぞれのニーズを把握し、それに基づいて有効な対応策を検討していくことが重要である。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>

## 4 学校教育を支援する調査・研究の推進

事業・研修会名	4-(1) 社会科研究委員会
内容・方策	<p>小学3年生・4年生の社会科で学ぶ身近な地域や市(県)の社会的事象について理解を深め、地域社会に対する誇りと愛情を育てるための学習資料を作成する。(社会科研究委員 小学校9名)</p> <p>○「わたしたちの黒部市(上)(下)」(3・4年社会科学習資料)について、地図の修正、関係団体等への聞き取りや行政資料の変更に合わせて見直しと改訂の作業を行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○社会科研究委員会(年2回開催、8/3、8/22)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしたちの黒部市(上)と(下)の改訂を行った。</li> <li>・地図では、中央小の位置や施設名の訂正、新幹線や道路、工場や店・施設の追加や削除等を行い、できるだけ正確になるようにした。</li> <li>・児童が見やすいように図や写真は可能な限り拡大し、名称も付けた。また、説明文の文字を大きく読みやすい字体にし、ふりがなも増やした。さらに、数字の桁区切りのカンマがあると児童には読みにくいという委員の意見を基に、全て削除した。</li> <li>・第1回に(上)と(下)両方の改訂箇所を同時に分担・検討し、第2回で両方の改訂原稿の確認をした。その時点でデータ未確認や訂正を要する原稿は夏季休業あけまでに送ってもらい、委員長・副委員長が最終確認する方式で進めた。委員会開催が夏季休業中の2回のみで(上)と(下)の改訂作業をほぼ終わることができたので、委員にとっては負担が軽減されてよかった。</li> </ul> <div data-bbox="1011 846 1417 1137" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模な変更がない時期は、全員が集まる会合は夏季休業中の2回の方式がよいと思われる。</li> <li>・地図資料を訂正する方法を具体的に説明した。作業班にPCに堪能な委員を入れるようにして編成し、協力して仕上げてもらった。委員ができない部分や細部については、教育センター指導員が訂正作業を行うようにした。</li> <li>・新学習指導要領実施に伴い、防災教育等の教材について、研究を進めていく必要がある。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>4－(2) 理科研究委員会</b>
内容・方策	<p>小学校における理科の学習活動を充実させ、児童の科学的な見方や考え方の育成に資するため、観察、実験に活用できる指導案や資料、ワークシート、掲示資料などを作成する。</p> <p>(理科研究委員 小学校6名、中学校2名)</p> <p>○ 小学校教員が授業で活用できる実験の手引きや児童の興味・関心を高める教材等を作成する。今年度は予備実験を行いながら、学年毎の「実験準備カード集」を作成する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>AA</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○理科研究委員会（年間4回、6/6、7/25、8/24、11/29）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回：活動計画として、教師が実験準備に使えるカード集の作成と予備実験の実施を立案。各学年の担当者を決定した。</li> <li>・第2回：作成単元とカードの内容・様式を確認。担当学年の各実験に必要な用具をセットアップして撮影した。</li> <li>・第3回：6年「水溶液の性質とはたらき」の単元を取り上げ、理科専科と中学校理科教諭を講師として、全体で予備実験を実施。また、作成したカードのワンポイント欄の内容を検討し、提出期限を確認した。</li> <li>・第4回：カード集の細部を検討し、本年度の成果と課題を話し合った。</li> <li>・理科の授業に不慣れな教師にも分かりやすいものを目指して「実験準備カード集」を作成・配布した。教科書の実験毎に1頁とし、準備物一覧とその写真・ワンポイント等を載せた。ワンポイントには用具や薬品の用法や作り方等の具体、安全かつ有意義な実験にするための指導のポイント等を記した。初出の用具については、教科書の巻末資料を基に用法をきちんと指導することを明記した。</li> <li>・学年毎の分冊を1セット、4学年分の合本を1冊ずつ各校に配布した。分冊を担当教員が持ち、合本を理科室に置いておくとより活用しやすいという委員の意見も各校に伝えた。</li> </ul> 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具をそろえ、時には予備実験をしながらカード集を作成する過程自体が教材研究となり、委員は授業への見通しをもつことができた。また、1実験1頁としたので一目で内容が理解でき、授業準備の時間短縮が図られると考える。</li> <li>・理科指導が初めての委員が半数であった。今後も増えるであろう。授業に役立つ資料の作成が続いたが、実験・観察に関する実技研修を通して力量を高めたいとの要望が多く出された。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	4－(3) 吉田科学館学習（プラネタリウム学習）															
内容・方策	<p>授業で観察することができない夜空・月・星・太陽系惑星・恒星など天体の見かけの動きをプラネタリウムで見ることにより、宇宙や天体への興味・関心を高め、見方や考え方を養う。</p> <p>○ 吉田科学館、教育委員会（スクールバス運行）と連絡調整をし、小学4年生・中学3年生のプラネタリウム学習が円滑に行われるよう計画、反省などを行う。</p>															
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加校 6月～10月 小学校4年生 9校（363人） 12月～1月 中学校3年生 4校（373人）</li> <li>・事前研修会参加人数 小学校7名、中学校4名（全校）、センター1名 中学校は要望により事前研修会を開催した。</li> <li>・マニュアル投映の効果</li> </ul> <div style="text-align: center;">  <p style="text-align: center;">アンケート結果</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>大変参考になった</th> <th>参考になった</th> <th>あまり参考にならなかった</th> <th>参考にならなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校4年生担当</td> <td>78</td> <td>22</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中学校3年生担当</td> <td>100</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>&lt;その理由&gt;  小学校：黒部市の風景と重ねて見ることで身近に感じ実際の空で星座を見たいという子供が多かった。教科書に沿った話だったので、大変分かりやすかった(中学校も)。  中学校：教室では見られない日周運動や惑星の公転の様子等をまるで本物のように見ることができてよかった。子供は実際に宇宙空間にいるような感覚になっていた。</p>	学年	大変参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった	小学校4年生担当	78	22	0	0	中学校3年生担当	100	0	0	0
学年	大変参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった												
小学校4年生担当	78	22	0	0												
中学校3年生担当	100	0	0	0												
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校はマニュアル投映後、4次元デジタル視聴(4校)・一般番組視聴(3校)・帰校(2校)と各校の選択に任せた。時間があればサイエンスショーも見学させたかったとの要望があったので、各校の要望にできるだけ添えるように連絡調整をしていく。</li> <li>・マニュアル投映になった28年より前は中学校の事前研修会を行っていなかったが、中学校の要望により毎年行う方向で進める。</li> </ul>															
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>															

## 5 迅速な教育サービスの提供

事業・研修会名	<b>5－(1) 情報提供</b>
内容・方策	<p>児童生徒、教職員が、安心・安全によりよい学校生活を送ることができるよう、必要な情報を迅速に提供し、情報の共有化を図る。</p> <p>①不審者情報や熊情報が出た場合、市教委と相談のうえ、迅速に学校や公民館等に連絡する。長期休業中の危険・問題行動については、連絡ルートに従って小中学校に連絡する。 (熊情報については市教委から連絡する)</p> <p>②報告書や資料の作成については、市教委や校長と連携しながら取り組む。</p> <p>③教育センターだよりを発行し、市内の学校の取組や教育センターの事業等を紹介する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者・熊情報については、市教委と相談しながら、確実に対応することができた。</li> </ul> <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告書や資料の作成、教育センターからの提案については、市教委や校長会等に相談しながら進めた。市教委や校長会からは、様々な示唆を与えていただき、それを報告書や提案に盛り込むことができた。</li> </ul> <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育センターだよりを通して、教育センターでの研修をはじめとして、各校での特色ある取組や学力向上拠点校での取組、黒部国際化教育の動き、市内の教員の教育への思い等、幅広く紹介することができた。</li> </ul>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者・熊情報については、迅速性が要求されるので、原則として、学校から来る情報については教育センターが、農林整備課からの情報については市教委が発信することとした。また、地域ぐるみで子供を守るという視点から、学校とともに、各地区の公民館へもFAXを送信した。各地区でも 防犯意識をもって対応していただいている。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>

事業・研修会名	<b>5－(2) 視聴覚教材・書籍等の整備や貸し出し、掲示物等の印刷</b>
内容・方策	<p>書籍、教材等を貸し出したり、印刷物を作成したりすることを通して、学校行事の運営や教育指導、教員研修の質的向上を支援する。</p> <p>①視聴覚教材、書籍等を購入・整備し、広報活動に努める。 ②ポスタープリンターによる印刷物の作成を迅速に行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の教材の貸し出しは、以下の通りである。 ※3月2日現在の数値。( )内は前年との比較。</li> <li style="padding-left: 20px;">◇視聴覚教材                   43件 (+1)</li> <li style="padding-left: 20px;">◇プロジェクター等の教具       1件 (-2)</li> <li style="padding-left: 20px;">◇WISCIV等の検査類           9件 (-3)</li> <li style="padding-left: 20px;">◇教科書                       160冊 (+84)</li> <li style="padding-left: 20px;">◇書籍                         51冊 (+15)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教材(DVD)については、視聴覚ライブラリー一覧をHPに掲載したほか、学校への巡回貸し出しを行ったり、市教セ研修会の際に受講者へ紹介したりしてニーズの掘り起こしに努めた。</li> <li>・教員のニーズが高いと思われる書籍を積極的に購入した。研修室に書籍を並べ、研修会で紹介したことにより、関心をもって借りていく教員が増加した。</li> <li>・教育センターの全職員がポスタープリンターの操作を習得し、ポスタープリンターを使った教材等の印刷依頼に対してなるべく早く対応できるようにした。</li> </ul> <div data-bbox="911 1238 1406 1525" style="text-align: right;">  </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な広報活動によって、視聴覚教材や書籍の貸出件数は、前年より増加した。また、視聴覚教材の巡回期間を昨年度の反省に基づいて、小学校は2週間、中学校は4週間とした。多くの先生方に見ていただけたようである。</li> <li>・学校が必要とする教材、資料等を学校訪問等の際に探り、ニーズに応じた物、教育課題に対応できる物を整備していくことが重要である。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・改善を踏まえ、平成30年度も継続する。</li> </ul>